

Educational goals & Policy / 教育目標・ポリシー



清泉大学 人間学部・人文社会科学部・看護学部

●建学の精神

「神のみ前に清く、正しく、愛深く」をモットーに、カトリック精神に基づいた教育を通して、深い知的、道徳的見識と教養を身につけ、社会に貢献し得る円満な人格と豊かな情操を備えた人間育成を目的としている。

▶ 教育研究上の目的

▶ ディプロマポリシー

▶ カリキュラムポリシー

▶ アドミッションポリシー

清泉大学 短期大学部

●建学の精神と教育研究上の目的

「神のみ前に清く、正しく、愛深く」をモットーに、カトリック精神に基づいた教育を通して、深い知的、道徳的見識と教養を身につけ、社会に貢献し得る円満な人格と豊かな情操を備えた人間育成を目的としている。

▶ 基本方針

▶ 教育目標

▶ ディプロマポリシー

▶ カリキュラムポリシー

▶ アドミッションポリシー

▶ アセスメントポリシー

▶ 学生支援の基本方針

教育研究上の目的

人間学部

本学の建学の精神である「キリスト教（カトリック）ヒューマニズム」に基づき、教養を重視した全人教育を通じて、幅広い教養と人間学領域の学知・技能を教授し、コミュニティとともに生き、常に自らを高め、共生のこころをもって、他者のために考え、行動し、地域と世界に貢献できる情操豊かな人材を育成することを目的とする。

●心理コミュニケーション学科

心理コミュニケーション学科は、コミュニケーションを共通項に、心の働きを理解し、コミュニケーションを通じた共生関係を積極的に形成し、地域や社会での諸問題を解決する能力を有する人材を育成することを目的とする。

人文社会科学部

人文社会科学部は、本学の目的、使命を果たすために、本学の建学の精神である「キリスト教（カトリック）ヒューマニズム」に基づき、教養を重視した全人教育と、未来予測が困難な現代社会に必要な学際的な学びや社会に関する学びを人文科学領域の学知・技能と結び付けることで、課題解決に挑み、社会と地域に貢献できる人材を育成することを目的とする。

●情報コミュニケーション学科

情報コミュニケーション学科は、高度情報社会のなかで必要となるコミュニケーションスキルを有し、人文科学を基盤としてビジネス、グローバル、デジタルに関する知識を関連させながら学際的・総合的に学び、情報・データの活用と他者とのコミュニケーションを通じて課題解決に貢献できる人材を育成することを目的とする。

●文化芸術学科

文化芸術学科は、文化芸術に関する諸学の幅広く学際的な知識と自らが発揮する社会、地域、共同体の多様性・多元性の正しい理解に基づき、行動力をもって文化の諸活動を主体的に行い、文化の創造に貢献し、文化の学びを課題解決につなげられる人材を育成することを目的とする。

看護学部

●看護学科

看護学部は、地域の健康ニーズに応え、本学の目的および使命を果たすために、建学の精神に基づき、「教養を重視した全人教育と看護学領域の専門職教育を統合し、地域社会の保健医療・看護におけるケアの質と安全を考究する体系的・継続的教育により豊かな教養と適切な判断力・適応力・倫理観を培った看護実践力を修め、学びの文化、ケアの文化、共生の文化の創生をおとて社会に貢献できる人材を育成する」（学則第4条）ことを目的とする。

ディプロマポリシー 卒業認定・学位授与の方針

人間学部

清泉女学院大学人間学部は、本学に所定の年限在籍し、以下のような知識、技能、資質を備えた学生に対して卒業を認め、学士（人間学）の学位を授与する。

1. 建学の精神である「キリスト教（カトリック）ヒューマニズム」を理解し、他者の立場を理解し、他者を尊重し、他者のために行動できる。
2. 論理的思考を通じて、批判的に物事を分析し、自ら問題を発見することができる。
3. 問題解決のため、計画を立案し、他者と協働し、実行することができる。
4. 異なる立場、意見を聴き、理解したうえで、自らの立場、意見を正確に伝え、調和ある人間関係をつくりだすことができる。
5. 各学科専門領域の学知・技能を体系的に習得し、高度な専門性と広い学識を身につけ、生涯を通じて学び続けることができる。

●心理コミュニケーション学科

心理コミュニケーション学科では、養成する人材の目的を踏まえ、学生に学位を授与するに当たり学生が修得しておくべき能力を含めた学位授与の方針を次のとおり定めることとする。

1. 地域や社会の問題に関心を持ち、課題解決に向けた批判的な分析と論理的な思考ができる能力を修得している。
2. 自己理解をもとに、コミュニケーションを通して、さまざまなバックグラウンドを持つ他者との共生関係を築くことができる能力を修得している。
3. コミュニティの中での課題解決に向けた計画を立案し、他者に働きかけながら協同して実行することができる能力を修得している。
4. 心理と英語コミュニケーションの各専門領域における体系的な学修のもと、高度な専門性と広い学識を修得している。

●心理コースは、

- ・社会の事象を心理学の視点から考えることができる、幅広い心理学の知識を修得している。
- ・統計的分析を行なうことができる、研究法と統計的分析の知識・実践能力を修得している。
- ・社会の諸分野で応用し実践することができる、心理学の応用的知識・能力を修得している。

●英語コミュニケーションコースは、

- ・実践的な英語スキルを修得している。
- ・国際感覚を身につけ、深い異文化理解をもとにしたコミュニケーション能力を修得している。
- ・教育理論と外国語教授法を身につけ、その英語教育能力の伸長をはかることができる能力を修得している。
- ・身につけた英語スキルや国際感覚を社会のさまざまな場面で活用する能力を修得している。

人文社会科学部

1. 包括的問題解決能力
問題発見力、論理的・批判的思考力を持ち、デジタル技術も駆使しながら社会的課題を解決している力を備えている。
2. 専門性のある総合知
社会課題を解決するための幅広い教養や学際的な専門知識を有し、その知識やスキルを具体的な場面で展開できる能力を有している。
3. 適応力と行動力
多様性を尊重し、常に変化する社会に適応しながら、他者と協力してグローバルに、ローカルに積極的に行動する力を備えている。

●情報コミュニケーション学科

1. 情報スキルを駆使しながら課題解決をしていく力がある。物事を批判的にとらえ論理的に説明できる能力を有している。
2. IT、ビジネス、グローバルの分野での専門知識を有している。その専門知識を社会課題解決のために用いる能力を有している。
3. 自ら他者と関わりながら実践的な企画立案やアイデア提供をできる力、行動力を有している。

●文化芸術学科

1. 文化芸術を理解し、課題解決をしていく力がある。物事を批判的にとらえ論理的に説明できる能力を有している。
2. 文化、地域づくり、クリエイティブの分野での専門知識を有している。その専門知識を社会課題解決のために用いる能力を有している。
3. 自ら他者と関わりながら実践的な企画立案やアイデア提供をできる力、行動力を有している。

看護学部

●看護学科

1. 建学の精神を理解し、人間の尊厳と人権を尊重し、看護専門職者に相応しい感性と倫理観をもって、他者に共感することができる。（共感力）
2. 幅広い教養を身につけ、人間関係を創ることができる。（人間関係力）
3. 看護専門職者として成長のために主体的な学びができ、新たな課題に取り組むことができる。（学習推進力）
4. 看護学を俯瞰的に捉え、社会の変化に対応して科学的に探究できる。（科学的探究心）
5. 看護及び保健・医療・福祉など多職種連携における看護の役割を理解し、良質な看護実践に向けリーダーシップを発揮できる。（リーダーシップ）
6. 人々の発達・健康・生活のニーズに応じた看護支援や根拠に基づくケアの質と安全を考慮した良質な看護実践ができる。（看護実践力）
7. 地域の健康ニーズを理解し、地域の人々の健康や福祉の充実に向上に貢献できる。（地域包括支援実践力）
8. 多文化理解と災害支援の重要性を理解し、国際・災害支援に貢献できる。（国際・災害支援実践力）

カリキュラムポリシー 教育課程の編成や実施の方針

人間学部

清泉女学院大学の学位授与方針のもと、以下の方針に基づいて教育課程を編成する。

1. 教育課程全体では、7つの力（課題発見力、論理的思考、他者尊重、コミュニケーション力、行動力、企画立案力、発信力）を身につけるために、地域やグローバルなフィールドでの共生の体験を重視し、実践的活動を取り入れた科目を配置する。
2. 「共通教育科目」は、学生の全人的成長および大学での勉学・研究の基礎の構築を目的に、養成しようとする知識や能力を明確にしたうえで、目的を達成するために、「建学の理念」、「教養科目」、「学習基礎」、「外国語」、「学外活動・スポーツ」、「キャリア系科目」の科目群から構成する。
3. 「専門教育科目」では、基礎・基本を重視し、専門の骨格を正確に把握させるとともに、科目間の関係や履修の順序、単位数等に配慮し、系統性と順次性のある教育課程の編成としている。また、広い視野を身につけるため、他学科・他コースの専門科目の履修も可能とする。
4. 留学や学外研修、インターンシップ、ボランティア等、学外での体験・実践を通じて能動的、主体的に学び機会を設け、カリキュラムと関連づける。

●心理コミュニケーション学科

心理コミュニケーション学科では、学位授与の方針と教育課程編成・実施の方針との一体性と整合性に留意しつつ、卒業までに学生が身に付けるべき資質や能力を修得するための教育課程編成・実施の方針を次のとおり定める。

●学位授与の方針を踏まえた教育課程編成の方針

1. 専門科目のカリキュラムは、基礎科目と展開科目を設ける。
2. 心理コースの教育課程編成の方針
 - ① 心理学の研究方法を学ぶ基礎科目と、心理学の諸理論や実践を系統的に学ぶ展開科目から構成する。
 - ② 社会での心の働きを学ぶ基礎社会学系の科目群と、生涯発達の過程を学ぶ学校・発達支援系の科目群を配置する。
 - ③ 臨床心理学を基礎として心理療法や地域支援などの支援法を学ぶ臨床心理学の科目群と、調査やカウンセリング等を実習的に学ぶ実習的科目群を配置する。
 - ④ 社会の諸側面を心理学の観点から捉える応用的科目群を配置する。
3. 英語コミュニケーションコースの教育課程編成の方針
 - ① 英語の4技能を身につける基礎科目と、身につけた4技能を総合的に応用する展開科目から構成する。
 - ② 異文化の壁を越えてコミュニケーションで能力をつけることを目指し、日本と他の国の文学、文化を多角的に理解する科目群を配置する。
 - ③ ツールズ、ビジネス等での応用実践を行う科目群を配置する。
 - ④ 教育理論を修得し外国語修得法を身につけた英語教育に携わることのできる人材を育てる教職課程科目群を配置する。
4. 専門的能力の育成のために、2年次の基礎演習、3年次の専門演習を設け、4年間の専門的学習の総仕上げとして4年次の必修科目として「卒業研究・論文」と「専門セミナー」を配置する。

人文社会科学部

1. 論理的・批判的思考を育成するPBL型や探究型の科目および基本的なデジタル技術を習得できる科目を置き、包括的に社会課題を解決できる力を養成する。
2. 幅広く教養を学ぶことができる共通教育科目を設定する。また、各学科の特色を生かした専門科目を置くと共に学際的に学ぶことができる副専攻制度を設けて深い専門性の涵養を目指す。
3. 地域社会と協力して社会貢献を行うことができる科目や、学生が新たな挑戦に積極的に取り組める科目を設置し、学内・学外において行動力、コミュニケーション力、リーダーシップ等を育成する。

●情報コミュニケーション学科

1. 情報スキルの基盤を育成する科目、複眼的に物事を見て発見した問題を探究していく科目を配置する。
2. IT、ビジネス、グローバルの分野で専門知識を習得できる科目、幅広く教養を学ぶことができる科目を配置する。また資格に関する科目を配置し、資格取得を支援する。
3. 学内、学外で学生が主体的に活動し、協調性、積極性、コミュニケーション力を高めることができる実践的な科目を配置する。

●文化芸術学科

1. 文化芸術学の基盤を育成する科目、複眼的に物事を見て発見した問題を探究していく科目を配置する。
2. 文化、地域づくり、クリエイティブ分野で専門知識を習得できる科目、幅広く教養を学ぶことができる科目を配置する。また資格に関する科目を配置し、資格取得を支援する。
3. 学内、学外で学生が主体的に活動し、協調性、積極性、コミュニケーション力を高めることができる実践的な科目を配置する。

看護学部

●看護学科

1. 人間の尊厳の精神に基づく人間観や看護観を育てるとともに、看護の職業倫理に関する基礎的な知識を修得する科目を配置する。
2. 人間と社会を幅広く理解するとともに、コミュニケーション能力を修得する科目を配置する。
3. 問題を発見し、考え抜くためのクリティカルシンキングを修得する科目を配置する。
4. 看護学研究に関する基本的な方法論の修得のもとに、研究プロセスで得た知識や技能を総合的に活用して問題を解決できる能力を修得する科目を配置する。
5. チーム医療の中での看護職と多職種連携の役割を理解し、リーダーシップを発揮して看護職の役割を果たす能力、態度を修得する科目を配置する。
6. 人間を生物学的、心理・社会的側面から理解し、健康や障害に応じた看護を実践するために必要な知識・技術・態度と、看護判断力、問題解決能力を修得する科目を配置する。
 - ① 看護の概念および人間を生物学的、心理・社会的側面から理解する基礎的な科目を配置する。
 - ② 看護実践のための基本的な知識・技術・態度を身につける科目を配置する。
 - ③ 専門領域別に健康や障害の状態に応じた看護実践のための知識・技能、態度を身につける科目を配置する。
7. 地域包括ケアの必要性を理解し、地域における看護に関する基礎的な知識と実践する能力を修得する科目を配置する。
8. 文化の違いを理解し、互いに尊重する態度を育て、国際化する社会における看護に関する基礎的な知識を修得する科目を配置する。
9. 災害、被災に関わる看護の役割を理解し、災害支援活動に必要な実践力を修得する科目を配置する。

アドミッションポリシー 入学受入れの方針

人間学部

本学は複数の受験機会と多様な入試を提供している。本学の入試では、大学入学共通テスト、個別学力検査、調査書、面接及び小論文等を組み合わせることで志願者の能力や資質を総合的に評価する。

●受け入れる学生像

本学の建学の精神と教育目標に賛同し、大学での勉学・生活を通して、自ら考え行動する意欲にあふれた学生、様々な学修・社会経験をもつ、探究心と学習意欲の高い学生を受け入れる。

1. 知識・理解
高等学校の主要教科科目について、高等学校卒業程度の知識をもつ人。
2. 思考・判断・表現
物事を多面的かつ論理的に考察することができ、自分の考えを的確に表現し、伝えることができる人。
3. 関心・意欲
人間に関わる諸分野に関心を持ち、専門的に研究したいという意欲をもつ人。また、その成果を、自分自身の生き方や将来のキャリアに関連づけ、そして、他者のため、現代社会における実践のために活かしていくという意欲をもつ人。

●心理コミュニケーション学科

心理コミュニケーション学科は、コミュニケーションを共通項に、心の働きを理解し、コミュニケーションを通じた共生関係を積極的に形成し、地域や社会での諸問題を解決する能力を、心理学、英語、教育という分野を通じて養成する心理コースと英語コミュニケーションコースの2コースから成り、それぞれ以下のような関心をもつ学生を受け入れる。

1. 心理コース
心理コースは、人の心の働きや社会との関わりを中心に学ぶコースであり、以下の点において強い熟意をもつ学生を受け入れる。
 - ① 人の心や行動に関心をもつ人。
 - ② 心の問題に対し他者に寄り添いながら支援する意欲をもつ人。
 - ③ 心に関する知識を現代社会で実践的に活かそうとする人。
2. 英語コミュニケーションコース
英語コミュニケーションコースは英語の高い運用能力を教育や社会現場で活かす方法を学ぶコースであり、以下の点において強い熟意をもつ学生を受け入れる。
 - ① 英語力を高める熟意がある人。
 - ② 将来、学校や企業で英語を使った仕事をしたい人。
 - ③ 外国の文学や文化に関心のある人。
 - ④ 短期海外研修や長期海外留学に参加したい人。

人文社会科学部

1. 社会的課題に興味を持ち、それに関わる課題を発見して解決策を積極的に考えていこうという意欲を持つ学生、及びそのための技術の習得に取り組める学生を求める。
2. 専門的・学問的に学ぶことへの熟意、自分の専攻以外にも幅広く興味を持つ学生を求める。
3. 自分が持つ知識やスキルを社会のために役立てようという意欲と、自ら積極的に行動できる学生を求める。

●情報コミュニケーション学科

1. 社会問題に興味を持ち、課題解決方法を積極的に考えていこうとする学生。
2. デジタル技術を高め社会に貢献したいと考える学生。経営ビジネスの専門知識を学び、地域でまたは国際的に活躍したい学生。
3. 多様な人々と積極的ににかかわり、共感力を高めて共生していこうと考えている学生。

●文化芸術学科

1. 社会問題に興味を持ち、課題解決方法を積極的に考えていこうとする学生。
2. 過去から現代に続く文化や芸術を読み解き、社会的課題と結びつけ企画やアイデアを創造することに関心がある人。
3. 多様な人々と積極的ににかかわり、共感力を高めて共生していこうと考えている学生。

看護学部

●看護学科

1. 本学の建学の精神に賛同し、社会の健康ニーズに貢献しようとする人。
2. 看護学部看護学科の教育目標に魅力を感じる人。
3. 社会に貢献できる人間として、学びの文化・ケアの文化・共生の文化の創生の目標に向かっていく意欲のある人。
4. 「よく考える」ことを通じて、自分を成長させることに努力を惜しまない人。
5. 高等学校の教育課程を幅広く修得している人。
6. 高等学校までの履修内容の広さ、看護学の基礎となる科目を身につけている人。
7. 知識や情報をもとに、論理的に考え、その考えを説明できる人。
8. 他者と協力しながら、課題を達成する能力を身につけている人。

基本方針

短期大学部

本学は、キリストのみ心にながらう人間愛に満ち、地の塩としての徳性と、世の光となる知性をそなえ、確かな学問と技能により社会に貢献する女性を育成することを基本的な目的とする。

●こども学科

短期大学部こども学科では、キリスト教（カトリック）の精神に基づく全人教育を教育理念として、以下のような保育者を養成することを教育の基本方針とする。

- ①他者への共感を大切に、人を愛し人につくす保育者。
- ②子ども・保育の社会的課題を自覚し、地域社会の子どもの育ちと子育てを支援する保育者。
- ③自ら学び自ら考え、互いの立場を尊重し他者と協働する保育者。

教育目標

短期大学部

1. 神に愛された人としての自覚への指導、ボランティアやその他の社会貢献活動の実践、ひとりひとりが大事にされる少人数教育など、充実した学生支援を通じ、愛し合い助け合う態度と意欲を培う。
2. 現代的教養の修得をめざす共通教育と各学科の専門教育において、ICT（情報コミュニケーション技術）やアクティブラーニングを導入した教育、セミナー教育や初年次教育、学内外の実践的学修等の創意工夫を通して、確かな学識とすぐれた実践能力を育成する。
3. これからの地域社会を担うためのキャリア支援、学生の積極的に地域活動や国際交流活動への参画と協力、生涯学習の充実等を通して社会への積極的な貢献を行う。

●こども学科

短期大学部こども学科では、「教育の基本方針」に掲げた保育者を養成することを目指して、以下を教育目標とする。

- ①人を愛し人につくす保育者となるために、地域社会に貢献する活動や様々な他者とながらう活動等を重視し、愛し合い助け合う態度と意欲を培う。
- ②子ども・保育の社会的課題を自覚し、子どもの育ちと子育てを支援する保育者となるために、現代を生きるに必要な教養の学修と、幼稚園教諭二種免許状、保育士資格等の取得のための専門的学修を通じて、保育専門職の基本的かつ実践的な態度・知識・技術を培う。
- ③自ら学び自ら考え、互いの立場を尊重し他者と協働する保育者となるために、主体的・体験的・協働的な学修を通じて、自己学習の能力と他者との協調性や協働性を培う。

ディプロマポリシー 卒業認定・学位授与の方針

短期大学部

「教育目標」に示した「愛し合い助け合う態度と意欲、実践力」や「確かな学識とすぐれた実践能力」を身につけ、「社会への積極的な貢献」を行う姿勢を重視し、各学科のディプロマ・ポリシーに基づいて卒業の認定、学位の授与を行う。

●こども学科

1. 本学の保育者養成教育の全体を通じて、今日の保育者に求められる倫理観、他者への受容と愛し合い助け合う態度を修得している。
2. 教養教育及び幼稚園教諭二種免許状や保育士資格等の専門的学修を通じて、今日の子どもの育ちや保育に求められる基礎的教養及び保育の専門的知識と技能を修得している。
3. 特色ある教育課程を通じて、自ら考え行動する力や、保育に必要な思考力・表現力・感性の基礎、他者と協働する資質能力を修得している。

カリキュラムポリシー 教育課程の編成や実施の方針

短期大学部

次のような方針に基づき、教育課程を編成する。

1. 2年間を通じて、人間性、専門性、実践能力を高める教育課程を編成する。
2. 共通教育科目は、カトリック精神を中心に、現代に生きる女性として必要な教養や実務能力、学外での社会貢献・国際交流活動等を通じて全人教育を行う目的から編成する。
3. 専門教育科目は、各学科の教育目標に沿い、必要な専門教育科目を十分に開設し、専門性と学生の自由な科目選択、各学科にふさわしい免許・資格を取得する課程を確保するよう編成する。

●こども学科

1. 教養教育科目は、「建学の精神」科目を中心に、現代社会に必要な教養、社会貢献・国際交流活動等を通じて「こころを育てる」目的から編成する。
2. 専門教育科目は、幼稚園教諭二種免許状や保育士資格の取得と、子どもの育ちに関連した特色ある諸資格の取得、子ども・保育に関する学際的教養を目指して編成する。
3. 特色ある教育課程として、保育者に必要な体験力や人間関係力、学びの基礎力を修得する特別プログラムを展開するとともに、長期履修学生制度を活用した「3年コース」を特設して柔軟な学びを確保する。
4. 特色ある教育課程として、自ら考え行動する力や保育に必要な表現力・創造力・感性の基礎を修得できるよう、学外実習、アクティブラーニング、保育演習施設を活用した授業やこども研究セミナー等を充実する。
5. 他者への受容と愛し合い助け合う態度、他者と協働する資質能力の基礎を学ぶために、様々な学外行事や課外活動、社会貢献活動等の機会を充実する。

アドミッションポリシー 入学者受入れの方針

短期大学部

日々の学習や研究、学園の様々な活動に意欲的に取り組み、卒業後も地域社会がより豊かになるよう貢献する学生を求め、次のような学生像を定める。

1. 自らの目標に向かって学修意欲をもち、日々学習・研究に努力する学生。
2. 他者への関心を広く持ち、思いやりと共感的理解を深めようとする学生。
3. 自己の成長を広く社会に還元し、社会貢献を積極的に行う学生。

●こども学科

こども学科では、次のような学生を定める。

1. 自ら目標とする保育者に向けて強い意志と志望を抱き、幼稚園教諭二種免許状・保育士資格等の取得を目指し努力する学生。
2. 保育の現場で求められる自ら考え行動する力や、表現力や創造力、感性を磨こうと自ら努力する学生。
3. 他者への受容と協働のために、積極的に地域貢献活動に参加し、他者とかかわろうとする学生。
4. 子どもや保育を取り巻く社会問題や地域課題に広く関心をもち、子育て支援や保護者支援に取組もうとする学生。

アセスメントポリシー 学習成果の指標

短期大学部

学修成果を可視化し、教育の改革・改善を恒常的に実施することを目的として、短期大学部こども学科の3つのポリシーに基づく学修成果を適切に評価するため、アセスメントポリシーを定める。

アセスメントポリシーは、学生の入学時から卒業時までを視野に入れ、機関（短期大学部）及び学科（教育課程）レベル、科目レベルの2つの区分ごとに、以下のような基本方針のもと、主要な評価指標（別記参照）を設定し、総合的かつ多面的に検証と評価を行う。

- (1) 機関（短期大学部）及び学科（教育課程）のアセスメント・ポリシー
短期大学部及びこども学科全体の学修成果は、別記に示した評価指標に基づき検証・評価する。全体的な傾向と推移を検証・評価し、教育研究体制や学生支援体制、FD活動等の改善の改善に活用する。

- (2) 科目ごとのアセスメント・ポリシー
各科目の学修成果は、シラバスにおける「学修到達目標」に示した当該科目が担う学修成果について、学生授業評価の結果を中心に学外実習の状況や各資格取得の結果等を踏まえながら検証・評価する。また、シラバスにおける成績評価の基準の適切性を検証・評価し、各科目の授業改善に活用する。

機関（短期大学全体）レベル及び学科（教育課程）レベルの主な評価指標は以下の通り。

- (1) アドミッション・ポリシーの検証と評価
 - ① 入学試験の実施状況
 - ② 入学時の広報部学生アンケート
- (2) カリキュラム・ポリシーの検証と評価
 - ① 各セメスターの単位修得状況及びGPAの傾向
 - ② 退学・休学・留年の状況（各学年）
 - ③ 学生生活満足度調査（1年次終了時及び卒業時）
 - ④ 学生授業評価の結果
 - ⑤ 教育の実施状況や各種のアンケート結果
 - ⑥ 「学修成果」に対応した独自指標による達成状況

- (3) ディプロマ・ポリシーの検証と評価
 - ① 最終の単位修得状況及びGPAの傾向
 - ② 学位授与数、卒業率
 - ③ 就職率、進学率
 - ④ 免許・資格等の取得率
 - ⑤ 卒業後調査等の結果

機関（短期大学全体）レベル及び学科（教育課程）レベルの主な評価指標は以下の通り。

- (1) 6つの「学修成果」
こども学科では、以下の6つの学修成果を定める。このうち、Ⅰは在学中の保育者養成全般を通じて獲得されるものであり、Ⅱ～Ⅵはこども学科の保育者養成教育を通じて育ち・培う資質や力量を定める。

- Ⅰ 幼稚園教諭二種免許状や保育士資格、また、希望するこども学科の諸資格を取得し、保育専門職にたずさわる。
- Ⅱ 建学の精神に基づく人間教育（「こころを育てる」）とこども学科の専門教育を通じて、現代の子どもの発達・学び・生活の姿と課題を理解し、保育と子育て支援を担うために必要な基礎的教養と倫理観、及び保育の専門的知識と技能を修得している。

- Ⅲ 各種実習やこども学科の専門教育を通じて、多様な保育実践の場で必要とされる実践力や課題発見・解決能力、思考力や基礎を修得している。
- Ⅳ 各種実習やこども学科の専門教育と学科の諸行事等を通じて、保育実践の場で必要とされる豊かな表現力や創造力、発想力の基礎を修得している。
- Ⅴ 保育の専門教育科目や学科の諸行事等を通じて、保育実践の場で必要とされる主体性や自己学習能力の基礎を修得している。
- Ⅵ 本学の人間教育や学科の諸行事・特別プログラム、地域貢献活動等を通じて、保育者に求められる基本的な体験や人間関係力の基礎、および他者を受容し他者と協働する力の基礎を修得している。

- (2) 学修成果Ⅱの「基礎的教養と倫理観、保育の専門的知識と技能」の要素
上記の学修成果のうち、Ⅱの「学修成果」は、次の6つの要素から構成される。

- a 保育の基礎的教養（現代的教養・倫理観）の修得
- b 現代の子どもの発達・学び・生活の現状と課題の理解
- c 保育・幼児教育、福祉の原理・目的の理解
- d 保育及び子育て支援の対象の理解
- e 保育内容や保育方法、具体的援助の方法の理解
- f 保育に関する基礎的知識の獲得
- g 上記のb～fに基づく保育実践力の基礎の獲得

学生支援の基本方針

短期大学部

社会に貢献する態度と個性豊かな学生の育成を目指し、以下の3つの方針によって学生の学園生活全般を支援する。

1. 学生一人一人が存在感を感じ、健康に生活できるよう、教員のオフィス・アワー、クラス担任制およびセミナー制、保健室・学生相談の充実などを通じて支援する。
2. 生き生きとしたキャンパスライフの実現を、学生会活動やサークル活動、施設・設備の充実などを通じて支援する。
3. 就職・進学など卒業後の自己実現を、キャリア・ガイダンスの充実、きめ細かな個別相談などを通じて支援する。

●こども学科

- ① 学生一人一人が存在感を感じ、心身ともに健康に生活できるよう、専任教員や学生支援部職員と信頼関係を築き、また、保健室・学生相談の充実などを通じて安心できる学園生活となるよう支援する。
- ② 様々な学科の行事や学生会活動やサークル活動、社会貢献活動等を通じて、学生の自主性や主体性を伸ばし、他者への共感や協働の重要性を学ぶ機会を提供する。
- ③ 保育専門職への適切なキャリア形成を促し、就職・進学など卒業後の進路希望が実現するよう、キャリア・ガイダンスの充実、きめ細かな個別相談などを通じて支援する。